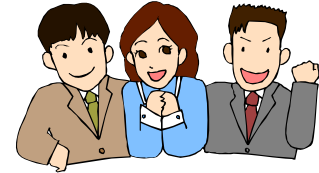


1. 平成24年度内部環境監査終了

全8部署に対し、1月19日、23日、31日、2月9日、15日の5日間に亘り、ISO14001の規格、及び当社のマニュアル、規格等に基づき、内部環境監査を実施しました。全部署のご協力のもと下記のような監査結果を得ました。(詳細は内部監査終了報告書を参照下さい)

重大な不適合(A)	なし
軽微な不適合(B)	なし
観察事項(C)	3件
*要望・推奨事項	13件
良い点	4件



基本はあくまでも適合性監査ですが、業務上の課題を監査側、被監査側がともに発見し解決案を考えることで、業績の向上、及び業務の効率化・改善の一助となることを目的として監査を行いました。今後も、環境マネジメントシステムがより役立つことを目指していきたいと思しますので、これからも継続して取り組みにご協力いただけますようお願いいたします。

2. 東日本大震災について

東日本大震災の発生から2年が経過し本年3月11日午後2時46分、震災で犠牲となられた方々の御霊に対して、当社では1分間の黙祷を捧げました。

今も、不自由な避難生活を余儀なくされている方がたくさんいらっしゃいます。私たちは、3.11を忘れない! 東日本大震災を心に刻み、今も震災に苦勞されている人たちのことを忘れない。私たちにできることを日々の中で行う。皆で、そのことの誓いを新たにしました。



3. 気になるPM2.5

昨今、ニュース、報道番組などでPM2.5の話題がよく取り上げられています。筆者がこの言葉を最初に耳にしたのが昨年1月の神奈川県VOC対策講演会でした。この時は、2009年に環境基準が設定されたこと、微小粒子物質であるため肺の奥まで達し呼吸器、循環器及び肺がんなどの疾患をひき起こす要因となること、神奈川県では2001年から県内の実態調査をしていて、2010年度は夏季で6割、冬季で4割削減しているなどの説明がありました。2012年12月時点で11ヶ所に自動測定器を設置して連続測定を実施しているとのこと。この削減の要因として自動車や工場・事業場の対策の進展により、主に炭素成分濃度が減少したためとされており、品質・環境委員会で講習会受講報告として数行ほど紹介しましたが、今になって、そのころ、既に中国の大気汚染の影響があってもおかしくない状況ではなかったのかと思われます。アメリカで1997年に初めて環境基準が設定されて以降、順次、世界の多くの地域で採用されたことを考えれば、12年経ってようやく設定された日本の取り組みは遅きに失する感が否めません。



いずれにしても、国内の対策は効果を上げているにもかかわらず、国境を越えて押し寄せてくる有害物質にはどのように対処すべきなのか、実に困った問題です。大変な視界不良の中の中国の人々の様子を報道でみると他人事とは思われません。日本の優れた環境技術で中国に協力しながら環境改善を図っていくのがベストの解決方法ではないでしょうか。因みに、ISO14001認証取得数は2007年1月末には日本が

21,779件と世界で最も多く2位は中国の18,979件であったのですが2008年12月末では中国に抜かれ1位が中国39,195件、2位、日本35,573件となりました。ISOマネジメントシステム規格は継続的改善を行っていくこと基本理念に掲げています。中国には是非、誇りを持って清浄化に取り組んでいって欲しいものです。下記は、大気汚染・黄砂予測状況を示すインターネットサイトです。

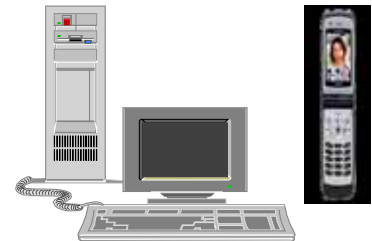
大気エアロゾル(微粒子)予測

http://sprintars.riam.kyushu-u.ac.jp/forecastj_list_main.html

4. 最近の法改正動向から

都市金属鉱山という言葉を目にしたことはありますか。携帯電話、ゲーム機、デジカメなどの小型電子機器の開発スピードは目覚しく、新製品が次々と発売され、この間買ったばかりのものがあっという間に陳腐化、旧製品になっていきます。

筆者も、昨年末、パソコンが壊れ、買い替えを余儀なくされましたが、旧のパソコンに接続して使っていた、プリンター、ICレコーダー、デジカメ、ビデオの型式が古いので、新しいパソコンでの動作保証がされず、やむなくプリンターは買い換えましたが、その他の機器は動作不安定な状況で、今、買い替えを思案しています。



このような小型電子機器は、金やプラチナなど日常生活になじみのあるものから、ハイブリッド車、携帯電話、液晶テレビ、太陽電池に使用される、インジウム、タンタルなどのレアメタルを多く含んでおり、2008年に公表された独立行政法人物質・材料研究機構の調査では、日本のレアメタルの輸入量から製品として輸出される分を差し引いてはじき出された残量は、金、銀、鉛、インジウムは世界最大の資源国となり、銅、白金、タンタルも世界で3位までに入る資源国にランクされるという結果になりました。資源に乏しい日本にあって、なんと、その埋蔵量が世界のトップレベルにあることが判明したのです。都市鉱山とは、1980年代に東北大学の教授らが、大量に廃棄される家電製品などから資源を回収し、再利用することを提唱したときに使った造語で、最近「アーバン・マイン」という英訳までできているそうです。都市鉱山は、いわゆる天然鉱山よりも資源含有率が高いという利点があります。例えば、金の場合、鉱石1トンからの抽出量は5グラム程度ですが、携帯電話1トンからは300グラムは抽出できるとのこと。しかしながら携帯電話の回収率は3分の一程度といわれており、残りは埋もれているか、廃棄物処理に伴って埋め立て処分、はたまた本来得られる価値よりも低い価格で海外へ放出されているのが実情です。しっかりとリサイクル制度を整備して、この都市鉱山の資源を積極的に有効活用

していこうと、本年4月より小型家電リサイクル法(使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律)が施行されます。この法律は自主回収を促進するためのもので義務、罰則はありません。

市町村の収集回収、公共施設や認定事業者による回収ボックス設置などが行われることになると思いますが、積極的に協力していきたいものです。



レアメタルといえば、先日、東京大学の教授らの調査により、鳥島近海の深海に多量の有望な資源があることがNHKの「クローズアップ現代」で取り上げられていました。

レアメタル産出は中国が97%を占有しており、先般は、外交カードの切り札として使ってきて、ハイブリッド車の生産などハイテク産業に影響を受けたことは記憶に新しいところです。この鳥島近海の資源が早く技術的に実用化されることを期待したいですね。